Shunsuke

『なぜ、この身体・意識をもって生きてるのか』

中村 峻介

SHUNSUKE NAKAMURA

『なぜ、この身体この名前をもって生きてるのか』

『私』という意識は、なぜ今ここに存在しているのか。
『私』という意識は、どこからきてどこへ向かおうとしているのか。

壮大に広がり続ける時の流れから現れた『私』という物語を
紐解いて見たい。
そんな知的好奇心に突き動かされて
僕は生きている。

絵を描く事。
それは、どこか陰陽道の術印のように異界への扉を描く。
暗闇が鼓動し、色彩をまとい始めるかのように。

絵を描く事。
それは、どこか天体観測の望遠鏡のように星の輝きを捉える。
光は夜空をキャンバスに、虹の足跡を残すかのように。

絵が僕に驚きと発見をもたらす。
日常とは、終わることのない研究。

この世界は、時に窓を締め切った部屋のようだけど。

数学者が数式で、世界は多次元空間の連なりであることを証明し、世界の領域を広げるのと同じように。
僕は色と形の組み合わせを通して、この世界を数多ある時空間と繋げ、全ての境界線を越えていきたい。

海と空は繋がっていて。
宇宙と土は、同じ音色を奏で。
森は星と会話をし。
雨は音となり優しく世界を癒す。

奏でられた音色はやがて色彩となり、僕の身体を通り抜ける。

生きる証拠でありたい。
世界に数多に存在する一つの真実の音を、
この身をもって鳴らし続ける者として。

そして
光の形をなす者として。

ペルーでシャーマンに会い、その導きのもとセレモニーを受けた。
滞在中にいくつかのドローイングを描き上げた。
それが、僕が己を通して、異界に触れ合うはじまりだった。
何かを、意図してこの世界に表出する始まりとなった。

帰国後、その体験を他者と分かち合いながら、その異界の在り方をこの世界に描いた。
それらは圧倒的なエネルギーと大きさを持ち、立ち現れた。

また、北欧の山奥でビジョンクエストというネイティブアメリカンの通過儀礼にも参加した。
それは、自然界の声に耳をすませ、己を通して世界の美しさに触れる体験だった。
世界の美しさが、僕の中にもあることを知った。

絵の具、ペン、クレヨン。点、線、図形。
気づくとさまざまな道具、さまざまな手法で、自分の内なる美しさを描いていた。

自分の内側を見つめていると、同時に周囲の美しさに意識を向けていることにも気づく。
そして、友人や家族、場といった、僕が人生の旅の途中で出会った人・モノ・コトを自然と描いていた。
それらは、他者であったが、自分自身であった。

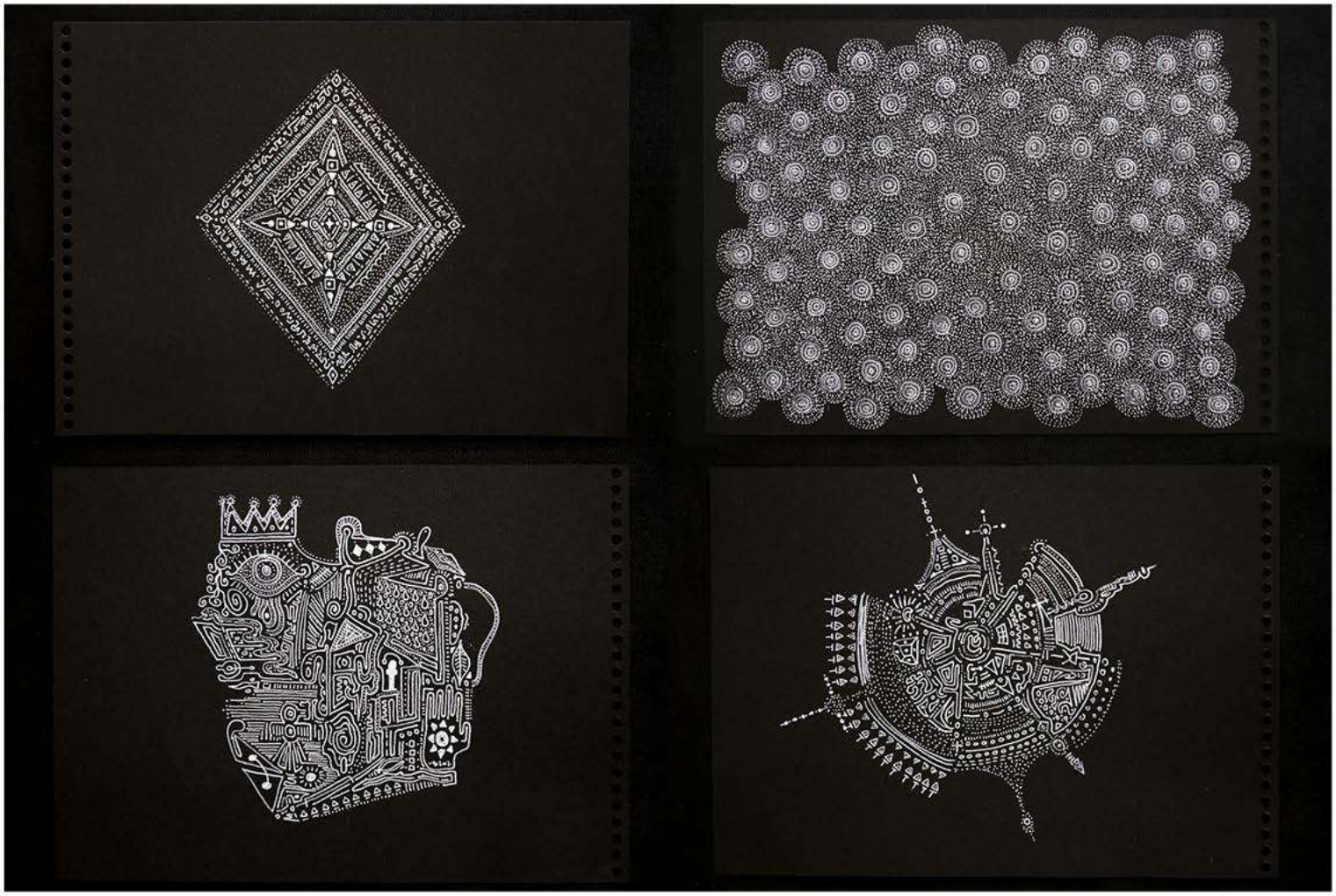
時折、Art Programやワークショップを行う。
それはこの旅路への招待でもある。
絵を描くことを通して、自分自身や、内側の世界、外側の世界、
見えていないものに触れられる時間を過ごすことへの。

それは、命が優しく育まれることへの貢献だと信じている。
僕から、世界へのギフト。

僕の身体を通して、今も大きな宇宙がうねりをあげている。
僕は今日も、世界の美しさと共にいる。

闇にとける意識

シャーマンの加護の元、植物の精霊が身体と魂の浄化をもたらした。
ドローイングを通して暗闇から訪れるものを、そのまま記すことがはじまった。



邂逅 2018 | pencil on paper (196×147)

ヴィジョン・クエスト

自分自身を見つめ『自分はどのように生きるべきか』を見つける為の、ネイティブアメリカンの成人の通過儀礼。
与えられた場所で数日間、一人森と過ごす。過去の私、未来の私、そのはざまの時間。
己の声に耳をすませ、自然の声に耳を傾ける。木は友であり師であった。

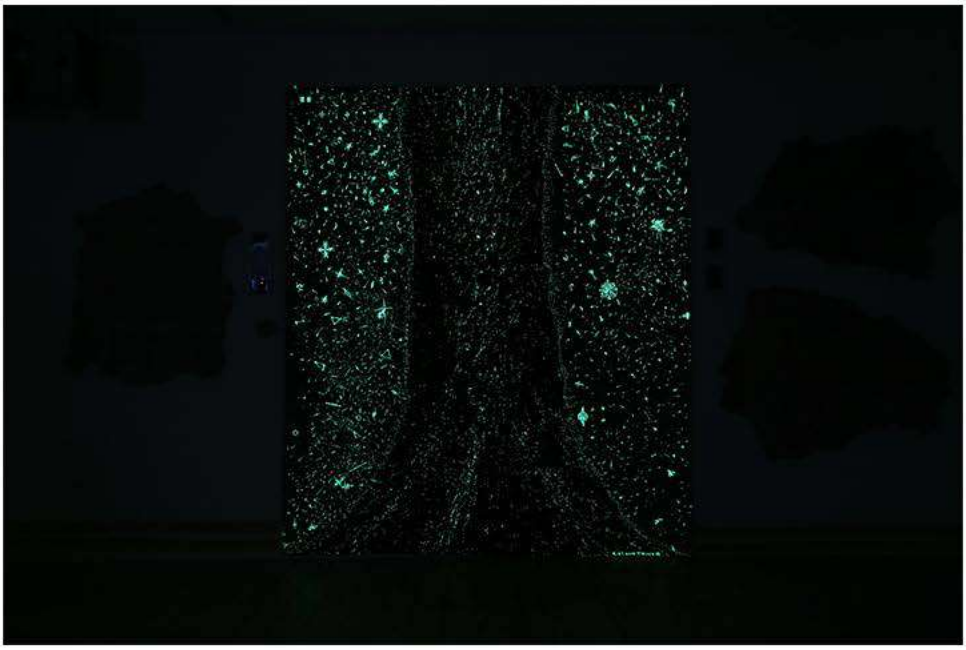
ジャーニーシールド
2018 | pencil on leather (850×500)

共に
命の声に触れる

ヴィジョンクエストの際、森で時間をともにした木を描いた。寄りかかれば、よりそい。
離れれば、見守る。そんな存在だった。
公園で制作してると子供達が自然とよってきて絵の上を駆け回った。

不確実性を招き、仲間とだからこそたどり着ける世界へと足を踏み入れる。
意識を共にする仲間(TRIVE)との共同制作。

Created by TRIVE



Mother Tree

2018 | acrylic on canvas (2500×2000)

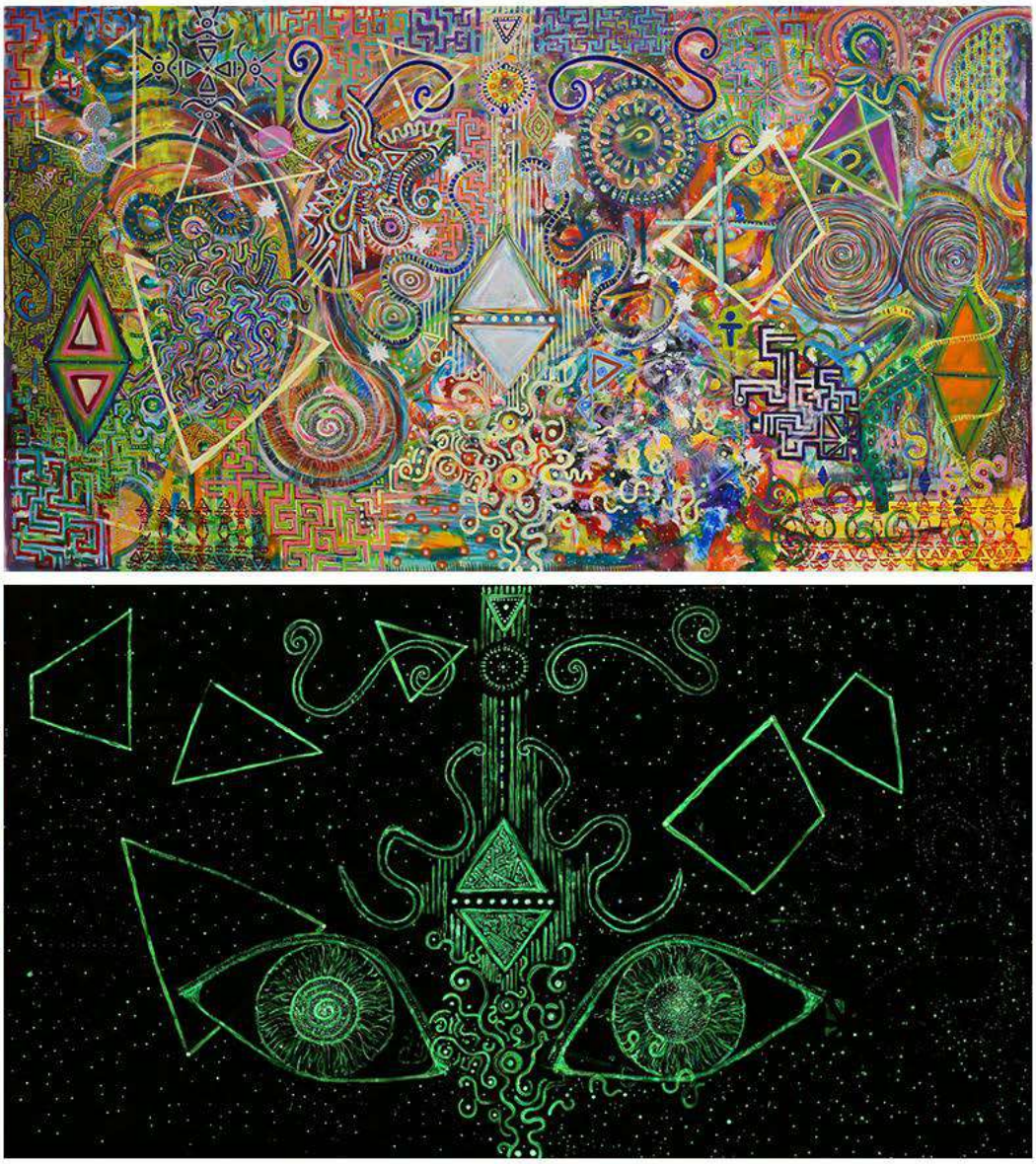
role：main painter, direction, concept make

地球の宴

2018 | acrylic on canvas (5300×2000)
role：main painter, direction, concept make

光の世界、闇の世界

地球の宴ではこの星の豊かさを描き、宇宙の宴ではペルーの闇の中でみたヴィジョンを描いた。
有形の美、無形の美。この世界の陰陽がこの二作品で露わになる。　Created by TRIVE



宇宙の宴

2018 | acrylic on canvas (3800×2000)
role：main painter, direction, concept make

全てを司る宴

空と海、昼と夜、月と太陽、、、あらゆる陰陽の世界が逆転し一つとなって立ち現れた作品。
全ての境界線を越えてたどり着く世界の集大成。そして新たな世界への扉。　Created by TRIVE

『ハートドリブン　目に見えないものを大切にする力』著：塩田元規　表紙絵

約束の樹

2019 | acrylic on canvas (6400×5800)
role：main painter, direction, concept make

光の神話展 @SPACE TGC 2019,07/23-08/11

地球の宴、宇宙の宴、Mother tree、約束の樹。

ピースが揃い、空間がひとつの物語として露わになる。物語の終わりが、新たな始まりを導く扉となる。

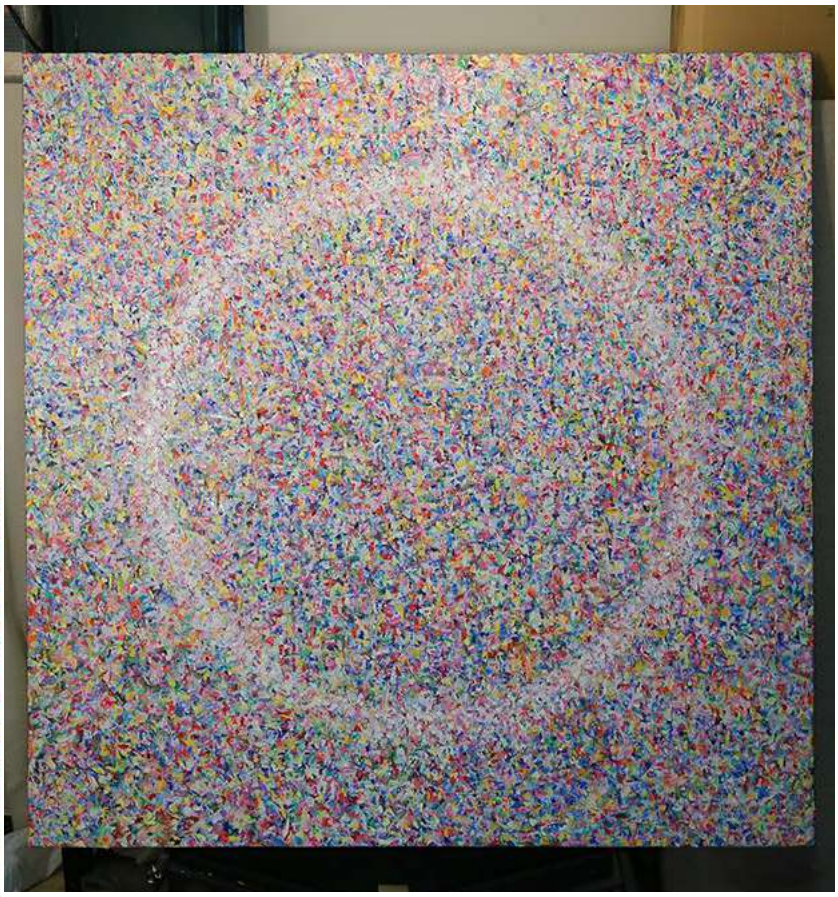
輝色 / Kishiki

自らの中にある、美しさの記憶を表現したシリーズ『輝色』。時折、目に差し込む光の軌跡、身体を通り抜ける虹の足跡。光の色彩が持つ一瞬の美しさに、絵の具を通して永遠の時間を与える。
色が命を持ち、蝶々のように踊りはじめる。自らの美しさを、外の世界へ放ちはじめた作品群。

輝色 2019 | acrylic on canvas (970×1,303)

無題 (Kazuhiro Iketani)
2019 | acrylic on canvas (273×273)

和合 2019 | acrylic on canvas (1,620×1,620



無題 (Ryo Morita) 2020 | acrylic on canvas (455×455)

輝雨 / Kiu

色彩をもった雨が降り注ぎ。眼下に一つの景色が現れる。
触れるようで、触れない、内なる情景。

碧 / 緋

2019 | acrylic on canvas (455×333)

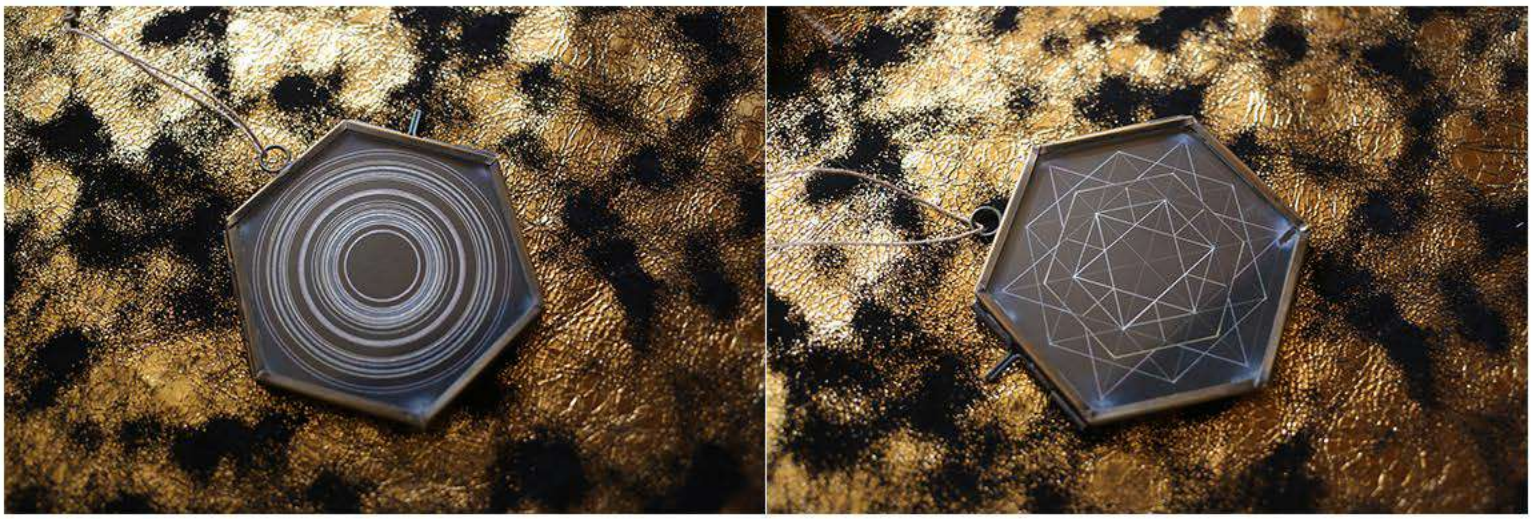
異界と遊ぶ

ある座標に意識をかたむけると、手を通して現れるものたち。
はじまりを司る者（理）、夢の中の私（セルフポートレート）、
光を宿す者（戦士）。クレヨンで描くドローイングシリーズ。

理 / Kotowari　2019~ | crayon on paper (85×50)

セルフポートレート　2020~ | crayon on paper (85×50)

戦士　2019~ | crayon on paper (85×50)



Vortex vol.1 (Hiroaki Takeshita) 2019~ | pencil on paper (95×95)

エネルギーをこの世界に留める

幾何学図形の回転・停止を表裏構造で一枚にした『Vortex』。
幾何学模様の図形『Figure』、形態変化を描いた『Animal』。
それぞれ、6色のペンで記される幾何学シリーズ。

Cube 2019 | pencil on paper (148×210)

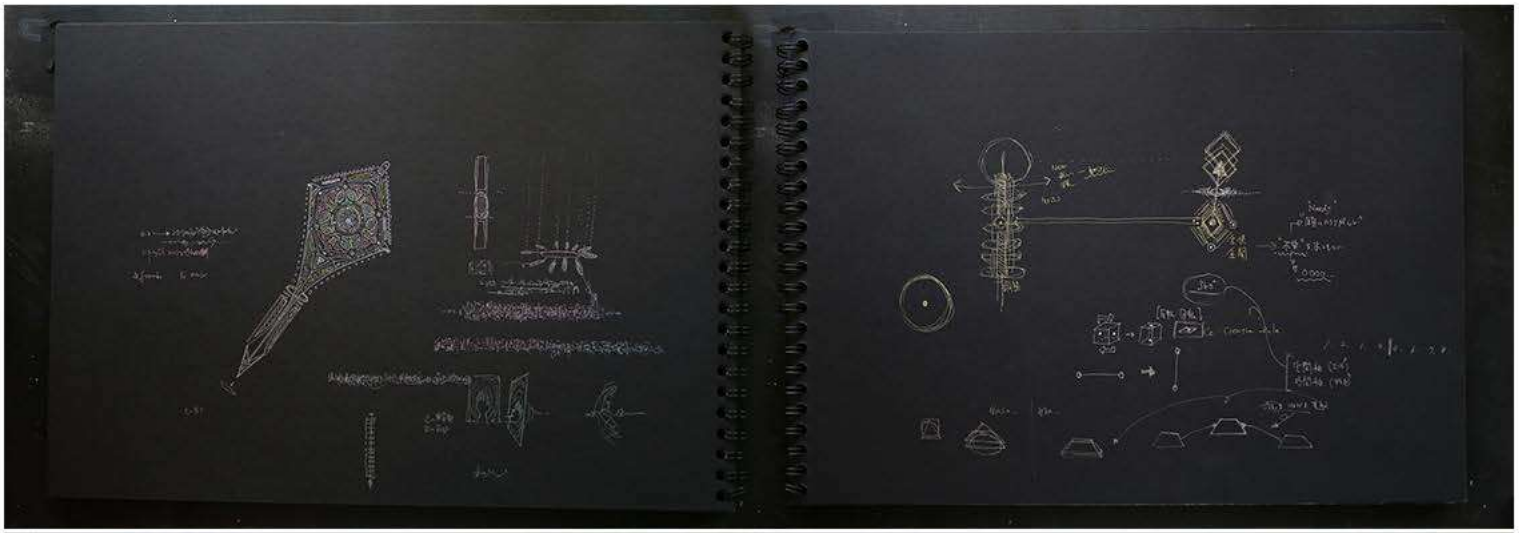
Condol 2019 | pencil on paper (210×297)

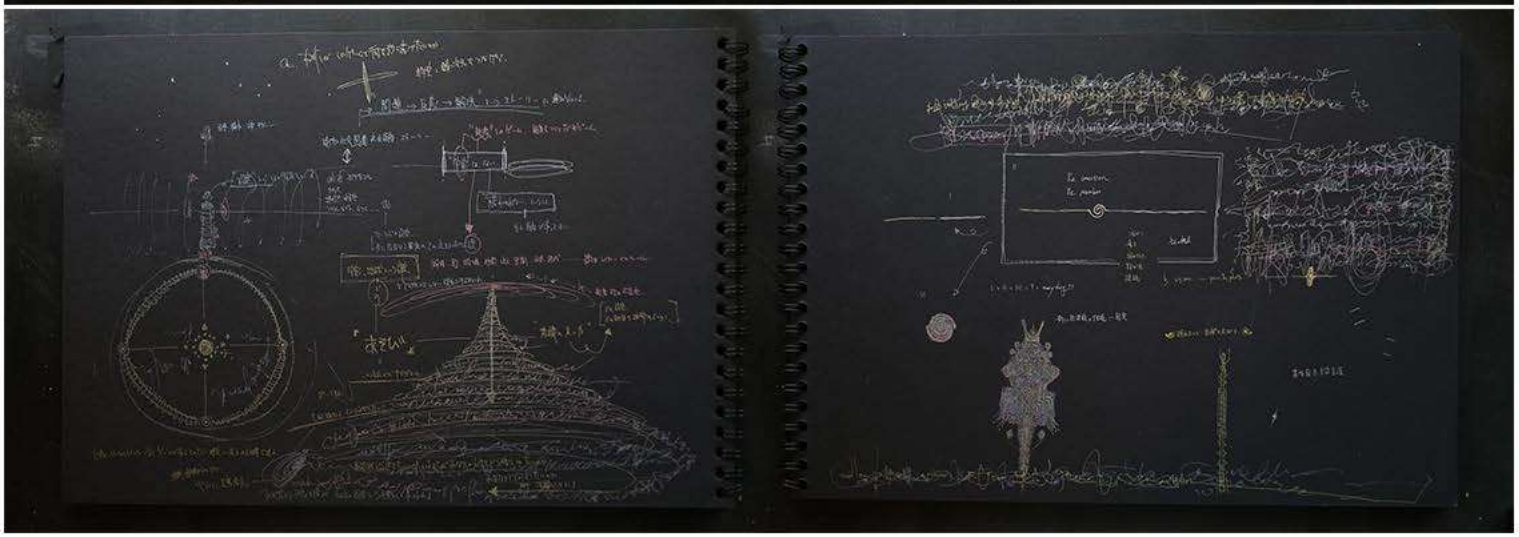
精霊　2020~ | pencil on paper(85×50)

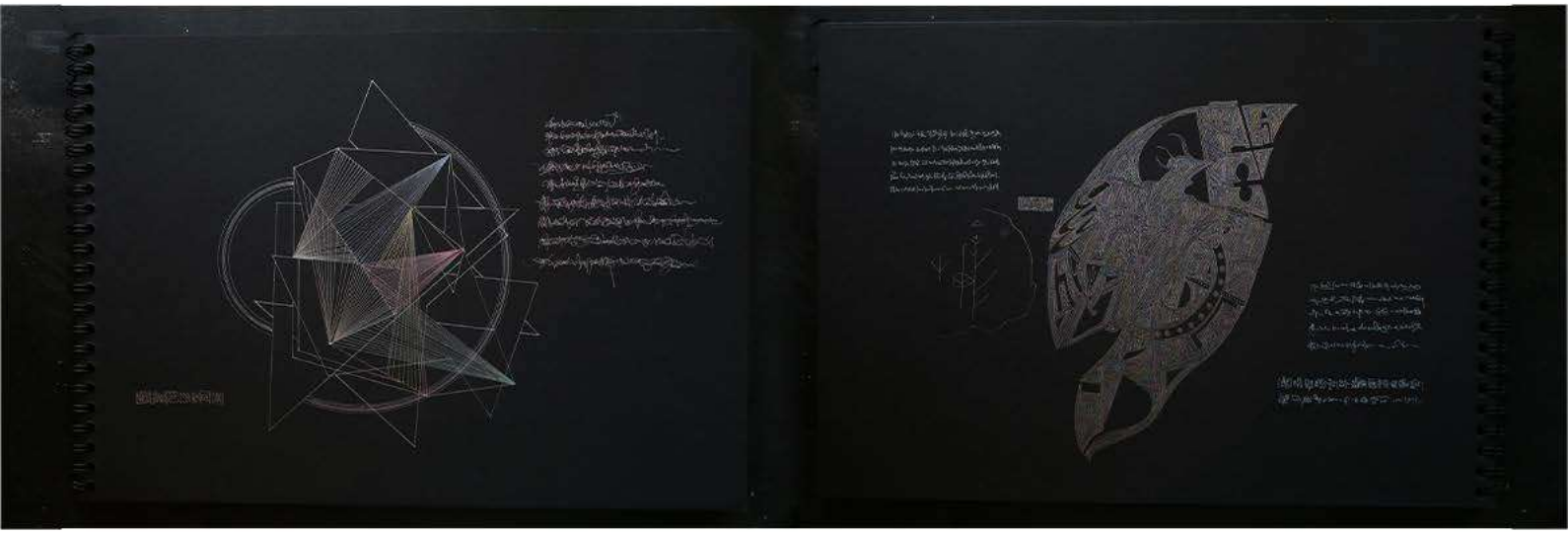
時を外した世界からの手紙

愛用の黒いノートがある。（ダヴィンチノートと呼んでいる。）ここには、様々な意識体とのコンタクトの形跡が記される。
どこかの地図、古の言語、この世でない命の形、ある法則や方程式、この世界では消失した真の名前。時空を超え、私から私に送られてきた手紙。時空を超え、私から私に送る手紙。
時に、今の自分に起きている出来事を解析し図解するツールでもある。

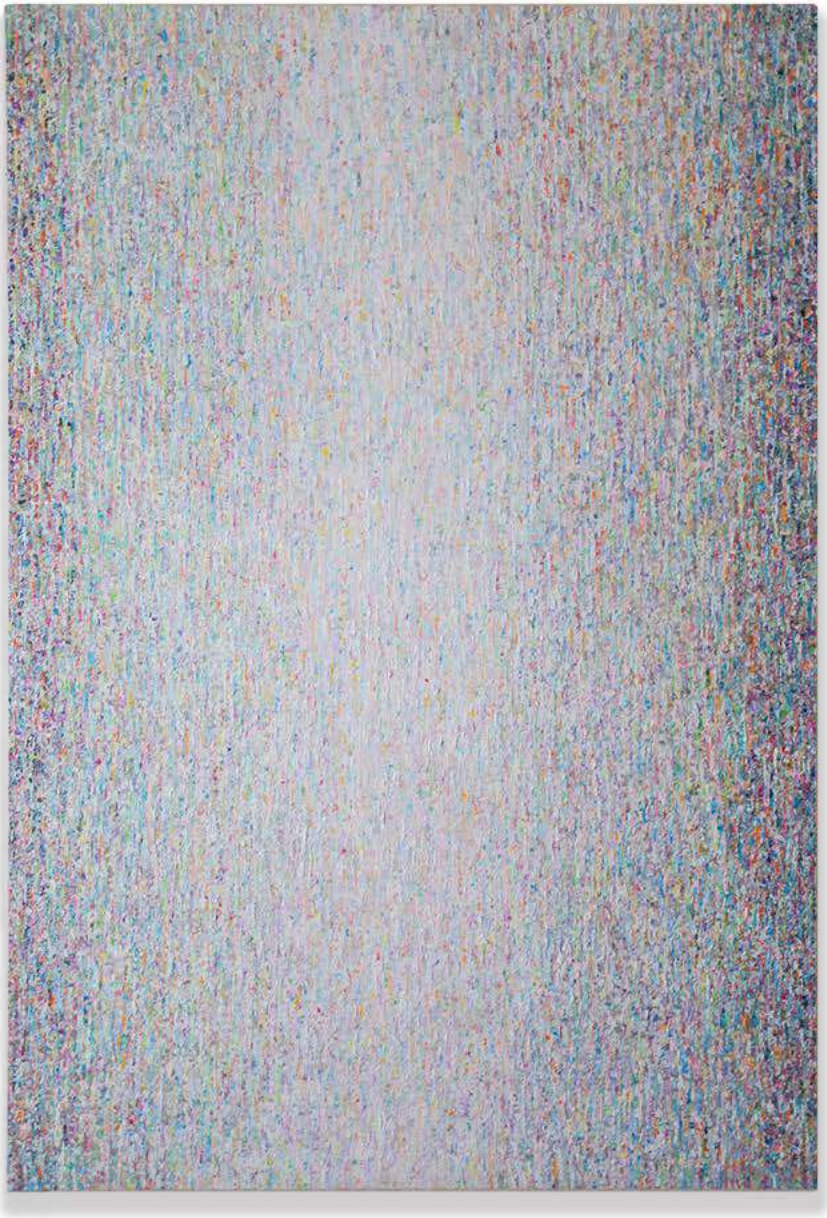
銀河の記憶　2020~ | pencil on paper(85×50)







ダヴィンチノート　2019 | pencil on paper (297×420)



円筒印章

描く前に映像が頭の中に浮かぶ。紙で作られた円柱が展開し、たわみのある一枚の紙へとなる。その映像を色でなぞる。絵は語る。

私の中に何が存在しているのか。私は全てを知ることになる。何をあることにしているのか、何をないことにしているのか。全てが広げられ露わになった時、私は私を迎え入れられるのか。

『輝色』『輝雨』に続くシリーズ『円筒印章』。
私のなかに存在する、すべてを含む空間を描く。

無題 (Yoshimi Murakami)
2020 | acrylic on canvas (970×1,303)

鏡景 / Kyoukei

世界は己の在り様をそのまま映し出すことを、友人夫婦が育む時の流れが教えてくれた。
幸せが己の願いから確かに始まること、それは自然と共に育まれること、願いは共に育まれること。
幸せが身体を巡り、色彩として世界に現れた。世界を見渡す眼差しが一変した体験を、一つの情景にしたシリーズ。

無題（Blue Village） 2020 | acrylic on canvas (1,620×1,303)

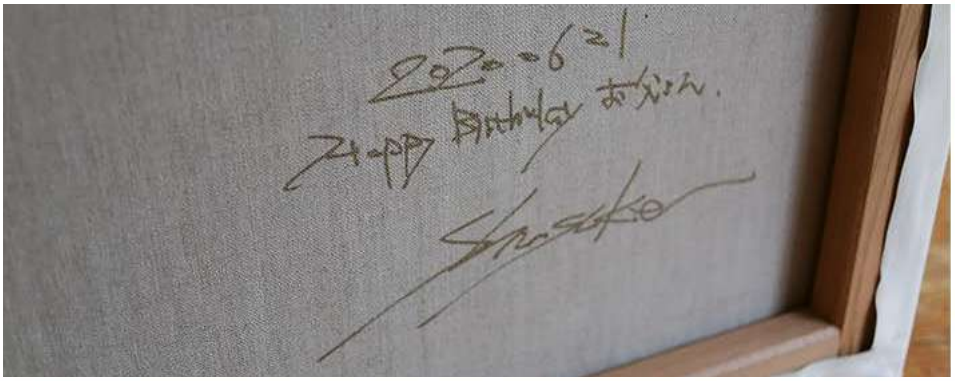
父の誕生日に

僕にとっての父。大きくて、強くて、優しくて、暖かくて。大好きな父への、最大の感謝を絵にした。大きな樹木のようであり、森のようであり、川のせせらぎのようであり。66歳おめでとうと、いつもありがとう。

『鏡景』シリーズ。誰かを思う気持ちや記憶が、心に現れそれが色となり景色となる。

無題 (my father)

2020 | acrylic on canvas (1,303×1,303)



世界への貢献

絵を描く旅路は、自分を癒す時間・深い自分にふれる時間だった。
その深淵な時間を、必要な人に渡していくことも人生の大切なミッションだと捉えている。自らを取り戻す時間として、新たな自分を思い出す旅路として、絵を描く空間をこれからも色んな人と共に作り続ける。
命が命に触れる時間への招待状。

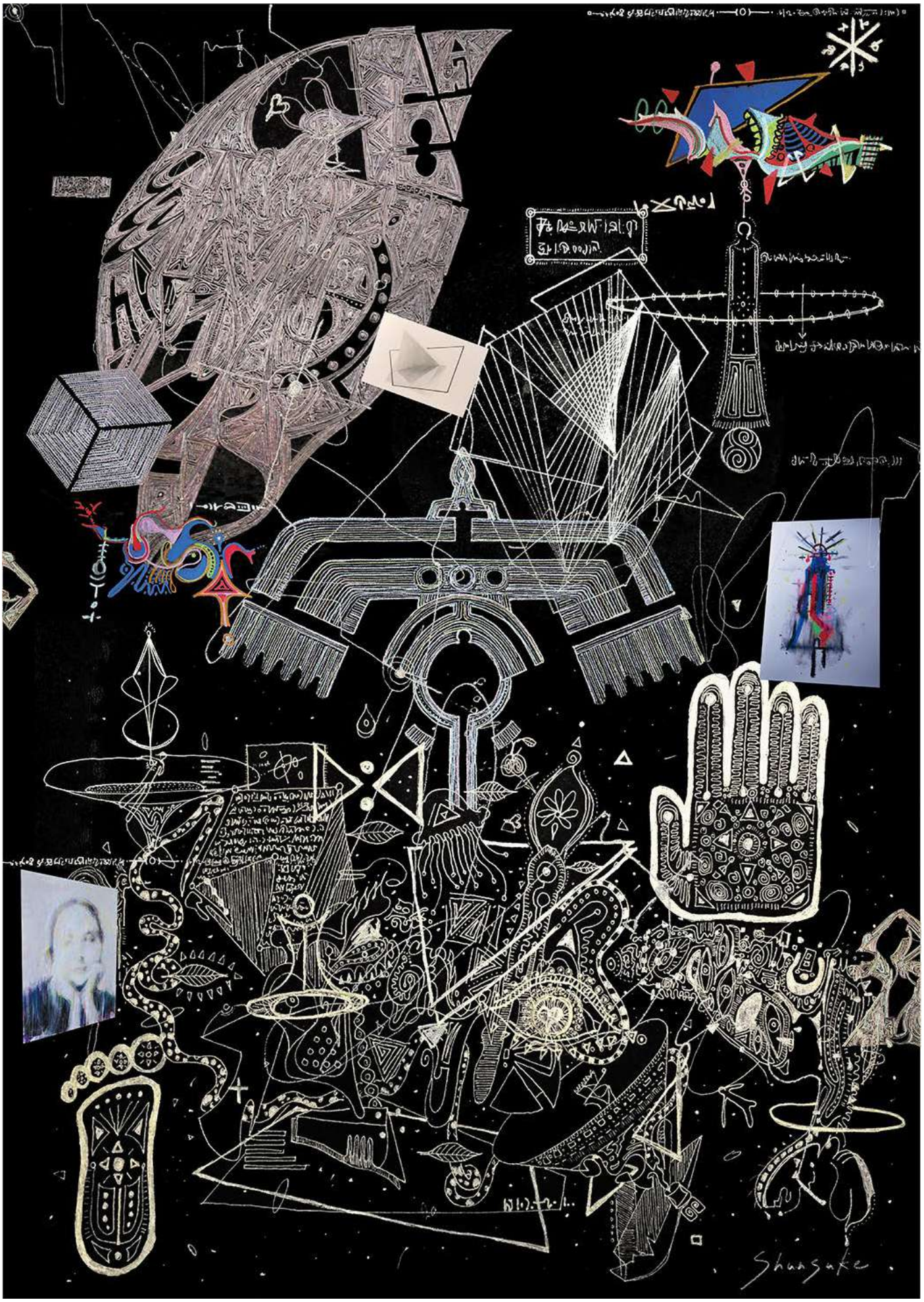
Art Your Soul! vol.1
2018.04.19-06.09

my party
2019.05.12

Art activation at Hayama
2019.08.15-08.18

Art Your Soul! vol.2
2019.08.31-11.24

Art activation at Isumi
2020.07.01-07.05



世界をどう捉えているか。

Blue Print ver.01

2020 | degital works サイズ可変

己がどうであるのか。

KING

2020 | acrylic on canvas (240×190)

中村 峻介 | Shunsuke Nakamura

1987年生まれ
多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻卒業後、(株) teamLabに就職。
退職後、クリエイティブユニットArrows、意識の共同体TRIVEを共に立ち上げ活動する。
ペルーでのシャーマンのセレモニー、ネイティブアメリカンの通過儀礼ヴィジョンクエスト等、
意識を探求する旅を経て、現在に至る。
色と形と戯れる日々を過ごす。

Shunsuke

shunsuke.nakamura@protonmail.com

Artworks / Atelier
@shunsuke_01

Photography
@shunsuke_02

フルオーダーでの作品制作を承っております。ご興味・ご関心のある方は、ご連絡ください。